

2026 年度 春学期卒業式・学位記授与式 告辞

下関市立大学

学長 韓 昌完

2026 年度春学期の卒業式・学位記授与式において、下関市立大学は 16 名の卒業生を社会に送り出します。本日は卒業生の皆さんと、卒業まで励まし支えてこられたご家族の方々に、大学を代表して心からお祝い申し上げます。

皆さんは今、人類史上もっとも豊かな時代に社会へ出ていきます。しかし同時に、多くの人が漠然とした不安を抱えている時代でもあります。今日は、この一見矛盾した状況をどう捉え、どう生きていくかについてお話ししたいと思います。

まず、私たちがどれほど豊かな時代にいるかを、数字で確認してみましょう。ここ十数年で、世界では新たに 16 億人が電氣を使えるようになり、20 億人が安全な飲料水を得られるようになりました。2012 年に 24 億人だったオンライン人口は今や約 60 億人となり、世界人口の約 4 分の 3 が情報や教育にアクセスする機会を手にしています。皆さんが今ポケットに入れているスマートフォン。その演算性能は、1980 年代に 1,000 万ドル以上を投じて、国の研究機関などにしかおけなかったスーパーコンピュータをはるかに上回ります。かつて世界の富裕層しか手にできなかったものを、今は世界で最も貧しい人々でさえ使いこなしています。1600 年代の英国王チャールズ 2 世が倒れたとき、王だけが手にできた秘薬として人間の頭蓋骨を蒸留した「王の滴薬」も処方されました。当時考えうる最善の治療でしたが、王は 4 日後に世を去りました。現代を生きる私たちは、当時の王よりもはるかに高度な医療を享受しています。

私たちは、地球の裏側の人と瞬時に顔を見て話し、宇宙にまで手を伸ばす、いわば「神のような能力」を手に入れました。ところが不思議なことに、不安やうつを訴える人はむしろ増えています。なぜでしょうか。

その理由は、**私たちの脳の進化が、現代の環境に追いついていない**ことにあります。文字が生まれた紀元前 3000 年頃から数千年かけて人類が書き記してきた文字の総量は、今なら手のひらの機器一つに収まってしまいうでしょう。一方、1 年間に生成されるデータ量は、2010 年の約 2 ゼタバイトから 2025 年には 181 ゼタバイトとされています。15 年で 90 倍—

一人類が情報を蓄えてきた数千年より、この十数年のほうが桁違いに多いのです（1 ゼタバイトは、今のスマートフォン約 40 億台分、つまり 181 ゼタバイトは約 7,000 億台にあたります）。一方で人間の脳は、何十万年も前の狩猟採集の時代、つまり変化が緩やかで、親の世代と同じ世界を生きることが前提の環境に適応して進化してきました。数年で世界が一変し、情報が滝のように降り注ぐ現代において、脳が処理しきれずに不安や無力感を覚えるのは、ある意味で当然の反応なのです。

だからこそ、古い脳の仕組みに引きずられるのではなく、意識的に新しい思考法を身につける必要があります。今日は、皆さんに二つのマインドセットをお贈りしたいと思います。

一つめは、「豊かさのマインドセット」です。これは、「資源は限られている」という前提を捨て、「資源そのものはテクノロジーで増やせる」と考える思考法です。私が学生の頃の教科書には、石油はいずれ枯渇すると書かれていました。しかし採掘技術やシェール革命の発展により、利用可能な資源はむしろ拡大してきました。同じことが、皆さんの人生にも言えます。限られたポストを奪い合い、既存の職業の枠の中だけで自分の価値を測ろうとすると、人は不幸になります。全員が同じ情報を見て、同じ限られたパイを取り合っているからです。そうではなく、AI やインターネットを味方につけて、これまで存在しなかった価値を自ら生み出してください。皆さんが開拓すべきは、誰かが用意したパイの一切れではなく、自分だけの新しい海なのです。

二つめは、「ムーンショットのマインドセット」です。これは、現状からの 10 パーセントの改善ではなく、10 倍の飛躍を目標に掲げる思考法です。Google 親会社のアルファベット傘下であるムーンショットを率いるアストロ・テラーは、「10 パーセントの改善よりも、10 倍の改善のほうがむしろ容易な場合が多い」と語っています。不思議に聞こえるかもしれませんが、理由は明快です。10 パーセントを目指すとき、人は過去の前提や先入観に縛られたまま、小手先の工夫に終始します。しかし 10 倍を目指すとき、既存のやり方では絶対に届かないことが最初から明らかであるため、否応なく原理原則に立ち返り、まったく新しいアプローチを考えざるを得なくなるのです。

変化の激しいこれからの時代において、「伝統だから」「これまでこうだったから」という理由は、必ずしも答えを与えてくれません。過去の前提にとらわれず、根本から問い

直す勇気を持ってください。

この二つのマインドセットは、大学である本学自身にも向けられています。18 歳人口が急減し、大学を取り巻く環境が構造的に変わっていく中で、本学は現状維持ではなく、変化の先頭に立つことを選びました。データサイエンス学部と看護学部を新たに設け、国際協定校を 29 校へと広げ、キルギスやインドネシアに学術拠点を開設し、大学発ベンチャーを立ち上げ、博士課程の設置を進めています。これらはすべて、地域と世界のあいだに人と知とビジネスが行き交う「レール」を敷く取り組みです。10 パーセントの改善では、この時代を越えられないと考えたからです。

テクノロジーは、新しい問題も生み出します。かつて馬車の時代には街路の馬糞が深刻な社会問題でしたし、自動車がそれを解決すると、今度は排気ガスの問題が生まれました。しかし歴史が示しているのは、技術は問題を生むと同時に、それを解決する手段を与えてくれるのもまた技術ということです。悲観する必要はありません。必要なのは、既存の枠組みの中で悩み続けることなく、自ら新しい解決策と価値を生み出していく姿勢です。

皆さんの母校である下関市立大学は、これからも挑戦を続け、世界に通用する大学へと発展していきます。どうか誇りに思ってください。そして、学び直したいと思ったときには、いつでも戻ってきてください。皆さんの母校は、いつでも歓迎します。

卒業生の皆さんが、豊かさのまなざしと、10 倍を目指す志を胸に、自らの手で新しい未来を切り拓いていかれることを心から願い、2026 年度春学期卒業式・学位記授与式の告辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

2026 年 9 月 30 日 下関市立大学 学長 韓 昌完